

No. 27

平成22年 2 月発行

静岡県老人福祉施設協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町 1-70

静岡県総合社会福祉会館内

TEL 054-653-2311 FAX 054-653-2312

E-mail : sizurosi@vesta.ocn.ne.jp

http://www.shizu-roshikyo.jp/

しず老施協

巻 頭 言

「在宅事業部会のあり方と
変革に向けて」

静岡県老人福祉施設協議会

在宅事業部会長 佐藤 昭南



急遽、前部会長河合氏の辞任に伴い私が会長職にと言うことで引き受けざるを得ない事となり、残任期間の部会長を引き受けさせていただきました。

もとより浅学非才でこの任ではございませんが、この在宅事業部会のリーダーとして改めてその重責とプレッシャーを感じております。

皆様にはすでにご承知かとは思いますが、この在宅事業部会を振り返って見ますと、当初の名称（組織）

は、デイサービスセンター連絡協議会として発足し約九年間この連絡協議会の目的である「諸事項の研究、施設相互の連絡調整及び職員の資質の向上」等その事業を実施し成果を上げてきたことはすでにご存知のことと思います。

そして、平成十八年度において二十一世紀の本格的な高齢社会に向けた総合的な高齢者対策としての効率的、効果的な組織の再構築として、老人福祉施設協議会とデイサービスセンター連絡協議会が大同団結して量的な拡大を図った所でございます。

しかしながら、本在宅事業部会（デイサービスセンター）の構成体は、他の老施協の三部会（養護部会、特養部会、軽費部会）と異なる特徴、つまり社会福祉制度の大幅な見直し、社会福祉基礎構造改革の社会福祉の量的拡大により、特に在宅福祉の分野においては、新たな福祉サービス産業と位置づけて、従来のような限定した事業主体（社会福祉法人主体）から民間企業も含めた様々な主体の参入へと規制緩和され、様々な主体の参加競争が生まれ、民間企業と同等のサービス水準競争意識の母体の組織であります。社会福祉法人をはじめ医療法人、市町、社会福祉協議会、JA、NPO法人、民間

企業（株式会社、有限会社、合資会社、合名会社）、協同組合等であるという認識、又県内施設数も七百八十七事業所あり老施協加入対象施設全体の七十四%を占めており断トツであります。そうした中で、会員数百七十三事業所の実質加入率は依然として二二%と低率で推移している実態であります。

また、この加入施設数の内七割超の施設が特養施設等の併設型であるということ。

このように改めて在宅福祉部会の構成体制等々を検証して見ると、様々な諸課題事項をかかえております。

このことから、以上の諸案件を認識し在宅事業部会のあり方、組織、運営体制の強化、事業活動の支援拡充に取り組む必要があります。

何にしても、今後の在宅事業部会のさらなる発展を目指すために、少しでもこの現状を打破していけるよう全会員皆様方のご支援、ご協力としてご指導を賜りますようお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム

「鑑 石 園」

鑑石園デイサービスセンター

施設長

特集一 「高齢者問題の取組みについて」

九月十五日の第二回編集小委員会において、協議の結果「介護労働者処遇改善について」「高齢者虐待防止法に係わる施設の取組みについて」「地域密着型サービスについて」の三点について、掲載することに決定しました。そこで各々の関係者に依頼しましたところ、快く承諾して頂きましたので、掲載させていただきます。

☆介護労働者処遇改善について

企画・経営委員長

川島優幸（みくらの里）

二〇〇九年の介護報酬が初のプラス改定（居宅・施設合わせて三％）となり、その増収分を賃金の引き上げや教育研修体制に振り向けられることが期待された。しかし、賃上げの実績は乏しく、追加措置として「処遇改善交付金」が盛り込まれる形の決着となった。

「報酬引き上げ分の二三〇〇億円を常勤換算した八十万人の介護職給与に充当すると、一人当たり月額二万円を超える」という当時の厚生大臣の試算は肩透かしを食らった感が強く、追加措置も基本報酬の引き上げではないため、「一時的な措置で終わるのではないか」という懸念が払拭されず、賃上げの期待感だけが先行する結果に終始している。

審議会においても「介護従事者の

処遇改善に向けた取り組みが一層の促進を期待されている」としているが、現実には期待通りの改善に至っていないのが現状と思われる。

野党時代の民主党は「介護労働者の賃金を月額四万円引き上げる。当面、療養病床削減計画を凍結する」など、給付抑制と相反するスタンスをとっていた。しかし、政権与党となった今、財源の問題をはじめ課題が山積している。

さて、今回のテーマである「介護職員処遇改善交付金」だが、この交付金の最大の利点は、介護職員への直接給付であるため確実に賃金アップに繋がるという点である。

しかし、少なからず問題点もある。
(1) 一般的に福祉施設は、退職等による職員の不足を春先の新卒者雇用で補充する場合が多く、上期の平均給与が前年度下期のそれより減少する傾向にある。しかし、交付金の支給基準は前年度下期の平

均給与であるため、その差額を施設が負担することになる。国は公務員のように中途採用者や新卒者の数が母集団に対して少なく、在籍職員の四月昇給幅が大きい就業モデルを想定しているのであらうが、このモデルに当てはまる法人は少なく、小規模事業者ほど敷居が高い制度になっていると感じる。

(2) 交付金の支給対象が介護職限定であり、SWや補助業務担当者が含まれないのは、事業所内の職員間で不公平感を助長するという懸念がある。よって、給付対象者の範囲を関連職種にも拡大すべきと考える。

(3) キャリアパス導入や教育制度の設定については、基準達成の明確なモデルが示されていない。これらは各施設の運営実態に密接に関連する課題であり、今回の交付金とは切り離して別途助成した方がスッキリして混乱がないと考える。

以上の内容は、「介護労働者処遇改善」に対する委員会というより、私見を「今現在の交付金についての施設における課題」としてまとめさせていただいた。

介護処遇改善・経営実態調査や介護の質の検証は、インデックス（指

標）によって結果の妥当性に差異が生じることも想定される。その指標を「経営に対する課題解決方法」として明確化させることが静岡県老人福祉施設協議会に課せられた役割だと考える。



☆高齢者虐待防止法に係わる

施設の取り組みについて

特養「くにやす苑」

施設長 藤田直利

特別養護老人ホームくにやす苑は平成十六年十二月に静岡県により設置された社会福祉法人大東福祉会が経営する施設です。遠州灘沿いの菊川河川敷の近くで大東温泉や海洋公園があり、空気の澄んだ日には富士山も見渡すことが出来ます。施設は二万平方メートルという広大な敷地に、平屋のユニットとショート合わせてユニット百名の利用者様が生活をしています。

くにやす苑でも「高齢者虐待防止・身体拘束廃止」に向けた研修会や対応に開所以来取り組んできまし

た。しかし、身体拘束廃止に対して重要な課題として真剣に捕らえることが出来ない時期がありました。

今から三年ほど前の事です。施設内を巡回していると一人の車いすの方が安全ベルトに固定されていた。近くに居た職員にどうして安全ベルトが必要かと尋ねると「家族には連絡して印をもらっています」との事。「そんな事を聞いているのではない」と思わず言ってしまった。

ただ、その職員は特別に問題意識が低いとか、身体拘束廃止に向けた研修に参加していない訳でなく、施設としての取り組みが不十分であることに後になり気がつきました。

それは、どのような状況が身体拘束であるか、身体拘束が必要な場合の手順はどうするかなどの研修会はしましたが、利用者にとって身体拘束はどのような影響をもたらすのか、福祉職員として廃止に向けてどう取り組まなくてはならないか、など本質的な部分について職員間で話し合われていなかったのです。

次年度、くにやす苑では身体拘束廃止委員会を立ち上げました。年二回の施設内研修の企画と身体拘束ゼロ宣言へ向けての取り組み、さらに実際に介護現場での事例検討をしました。

委員会では「身体拘束廃止は理解できるが、少人数での介護現場では

仕方がない」「安全に過ぎて頂くには必要悪の部分もあるのでは」など本音の意見も出されるようになりました。ただ、拘束による精神の不安定からくる事故の可能性の高さや、拘束をしない努力が職員としてどこまで出来ていたのか、さらに身体拘束実施後自分たちがどこまで廃止に向けた話し合いがされたかなどの多くに疑問点も出された。

そんな疑問点を身体拘束委員会として全体の施設内研修で課題として投げかけ、グループ検討をしてもらいました。グループ討議する事により、利用者主体の介護を目指す上で身体拘束がどれだけマイナスなのか、又知らず知らずに身体拘束に近い介護を自分たちがしている事に気がつく職員が多く現れました。その後、くにやす苑身体拘束廃止委員会では、身体拘束ゼロ宣言の実施とスピーチロック廃止への取り組みを静岡県高齢者福祉研究大会での発表へとつなげていきました。

くにやす苑ではまだまだ身体拘束廃止に向けて十分とはいえませんが、身体拘束廃止委員会の活動を通して、職員一人一人がグループワークや職員間の話し合いをすることにより、利用者の立場に立つことができ、自分の問題としての気づきが出来たと思います。



☆地域密着型サービスについて

特養「ながいずみホーム」

施設長 杉山好文

『希望のわだち柿田』

タイトルを見て「何だろう？」と思われた皆さま、これは東部の清水町で平成十九年八月から運営している、小規模多機能型居宅介護事業所（小規模多機能ホーム）の名称です。規模は、利用登録者数二十五名、『通い』の利用定員十五名、『泊まり』の利用定員は九名で、通所介護事業所が併設してあります。

十二月末現在、利用登録者は二十名いらつしゃいますが、二年半かけてやっとここまで来たというのが現状で、経営的にもどうにか目処がついてきたといったところです。

平成十八年四月の法改正を受け、国の施策も最期まで在宅という流れの中で事業を立ち上げた訳ですが、なかなか軌道には乗れず現在に至りました。これには様々な要因があり、ひとつは地域密着型サービス

の指定・指導監督を権限委譲された各市町村の対応・協力次第で大きく違うということです。さらに、新しいサービスなので、地域住民はもとより、ケアマネジャーの認知・理解・協力が不可欠であり、そこになりの時間を要したからです。さらに、居住型サービス（グループホーム）が併設できていれば、職員配置が効率的に行え、経営的にも余裕がもてたでしょうし、利用者の選択肢も増やすことができたと感じています。

そのような状況ですが、現場では顔馴染みの利用者・職員・環境での生活支援（サービス提供）というところで、馴染みの関係・寄り添う関係が築けていると思います。しかし、このサービスの基本コンセプトは認知症ケアです。利用者の皆さんは毎日通っても一日一日が新鮮（!?）ですが、近すぎる関係ゆえに職員はその対応に苦慮する場面も見られます。小規模でありサービス利用中・提供中は大規模施設に比べ、お互いに逃げ場が無いということなのですが、それだけがつまり四つに組んだ関係なのです。ユニットケア、グループホームも同様でしょうか。

もうひとつ、ながいずみホームは十八年目の施設であり、ケアは多床室・大規模ケアです。職員にとって

は、その状況に疑問を持ったり、理想を追求するためには、今まで退職・転職せざるをえなかったのが、ケアの形態が違ふことで選択肢が増え、開設時は十名程度の配置転換が行えました。さらに、地元（清水町在住）採用の職員が多いのも特徴です。

経営・運営的にはたいへん厳しいサービスであるため、厚労省の迷惑通りに施設整備は進んでいない状況ですが、実際地域に根を下ろしてみると、必要としている方は確実にいらつしやいます。そんな方たちのため、このサービスは歯を食いしばってでも継続させなければならぬと考えています。

如何に地域に溶け込めるか、これがまさに地域密着型サービスの使命でしょう。



特集二 「介護の日」キャンペーン
昨年制定された「介護の日」にあわせて、今年も各支部に街頭キャンペーンをお願いしたので、報告いたします。

東 部

東部支部は昨年同様、三島駅で街頭キャンペーンを行いました。昨年は初めてということもあり一五〇〇からの開始でしたが、乗降客は疎らで、ポケットティッシュを渡そうとすると怪訝な顔をする方もいました。

今年はその反省を踏まえ、高校生の下校時刻に合わせ一六〇〇スタートとしました。当日は小雨がそぼ降る生憎の天候でしたが、東部支部の各法人・施設から大勢の方と、地元の三島高校福祉科の生徒さんと先生にも参加していただきました。

参加者それぞれポケットティッシュ＋メモ帳セットと幟旗を持ち、いざ出陣。北口と南口の二班に分かれて始めました。予想通り下校する高校生は多く、石川会長も陣頭指揮に立ち、「介護の日」をPRしながら配布しました。雨天のため暗くなるのも早かったのですが、用意した二千組は三十分もかからず配り終えました。道行く方々はいい感じのリア

クションで、手応えを感じた啓発活動でした。

この日は、介護の専門職の私たちも、自分自身の介護を見つめ直す機会になりました。

（記：杉山好文）



中 部

あいにくの雨模様で天候でしたが、JR静岡駅北口の地下道でしたので支障ありませんでした。

のぼり旗を立て啓発用品（ポケットティッシュとメモ帳）の配布を行いながら、「本日は介護の日です。介護へご理解ください。」と介護の日をお知らせしました。

当日は一五〇〇から行いましたが、西部地区の様子がお昼のテレビニュースで「ケアットちゃんのぬいぐるみ」などが放映されたらしく、『是非とも、協力したい。』と静岡でキャンペーンが始まるのを待っていた方々もいました。

施設長他約二十五名の参加があり、人通りも多く、用意した啓発用品二千部は三十分位でなくなり、キャンペーン終了となりました。

今後は、「一日施設長」や「出前講座」、「施設見学ツアー」などの幅広い企画で、地域や学校の方々に参



加を願ひ、市民の関心を引くことも考えていかなければなりません。

(記：三重野隆志)



西部

浜松駅での街頭キャンペーン

昨年から制定された『介護の日』に合わせて十一月十一日に浜松駅で街頭キャンペーンを行いました。

当日はあいにくの天候となり、大雨洪水警報が出されていたほどでした。ＪＲ浜松駅北口広場に各施設の施設長及び職員五十名ほど(三十六施設)が集まりました。今年のPRグッズとしては、

一、『介護の日』のぼり
二、メモ帳、ポケットティッシュ
(メインキャラクターの絵入り) 二

千個

三、ケアットちゃん(男性介護職員さんがぬいぐるみの中に入りました)

＊『介護』のメインキャラクター愛称・《ケアットちゃん》やさしさを感ぜさせるピンク色のウサギをモチーフに親しみやすさが表れているキャラクターが大変目をひきました。今年は昨年よりも一歩進展したキャンペーンができたと感じています。

今年は、メインキャラクターの募集を県老施協が会員施設にかけて、西部支部ではそのキャラクター「ケアットちゃん」着ぐるみまで作成し、『介護の日』キャンペーンを盛りあげようと熱が入っていました。当日、発案者の方の参加もあり、「ケアットちゃん」ぬいぐるみと一緒に写真を撮る、ほほえましい場面などもありました。

浜松駅北口を中心に、南口、地下街などへも広がって通行人にポケットティッシュを配りました。「ケアットちゃん」が印刷されていて、手渡す職員も自然と明るくなれた感じがしました。

三十分ほどで用意したポケットティッシュ二千個を配り終えました。最後に参加者全員で記念撮影し、終了。

《報道》

十一月初めに新聞、テレビへ『介護の日』キャンペーンへの取材依頼を行いました。

『介護の日』制定の目的、介護現場の状況などを訴え、報道することで、介護のことをより多くの県民に関心を持ってもらえると依頼内容に載せました。

当日は、あさひテレビ、だいいちテレビのそれぞれニュース番組の中でキャンペーンの様子を放映してもらえました。

翌日、静岡新聞にも活動を紹介してもらったことができました。より、多くの方にPRできたのではないのでしょうか。

《『介護の日』今、介護現場では》

『介護の日』は皆さんご存じのようにな昨年厚生労働省が制定しました。

県老施協として東部・中部・西部と街頭キャンペーンを『介護の日』統一行動として起こしました。介護現場での人手不足の中、キャンペーンに協力できる施設も限られてきています。介護現場で働く私達自身が行動を起こさなければいけないと感じております。

それには、単一的にひとつの施設で悩もうごめいても変化は生まれません。今回のように各施設が協

力しあつて啓発していく活動の大切さ、また、そこに参加できていけることもありがたく感じています。今後ますます高齢化率が高まってくる中で、我々の仕事の果たす役割を考え、より充実したサービス提供ができるように、また、介護人材確保につながる(賃金up)ような改善を提案が図れたらと思います。

今後も『介護の日』の普及をするとともに介護現場の実態を知ってもらうような機会をつくり、より多くの方に『介護』の大切さをアピールしていくことが現職にいる我々の使命と感じています。

(記：花木)



●施設のユニーク行事

「おでんまつり」

柿田川ホーム デイサービス

私たち デイサービスでは四季折々に合わせた行事を毎月実施しています。

(寿司祭り、ひなまつり、夏祭り、お月見の会など々)

今回は職員のお家でとれたサトイモや近所の方からいただいた食材を利用して「おでんまつり」を行いましたので紹介します。

ねり物、大根、たまご、チキン、さといも……etc

どうかな、たべられるかな?と心配しましたが、大好評!!

「家では食べられない、皆で鍋を



かこんで楽しかったよ」と話もはずみ、お腹も笑顔もいっぱいになりました。

また、計画して行いたいです。



特別養護老人ホーム

あすか

法人名 社会福祉法人

「島田福祉の杜」

開設日 平成15年8月4日

(入会申込 平成21年6月3日)

所在地 島田市中河町326の1

入所定員 70名

デイサービス 30名

短期 20名

新加入施設紹介

平成二十一年十二月二十八日現在

介護老人保健施設

なごみ

法人名 社会福祉法人

「和光会」

開設日 平成21年5月1日

所在地 浜松市北区三方原町
1383-1

入所定員 29名

デイサービス 12名



「施設長として三年!!」

特別養護老人ホーム 多喜の園

施設長 遠藤 幸信

多喜の園の施設長になって丸三年、全く別の処からから福祉の世界に入りました。初めは何が何だかわからず、職員の皆さんの協力を得ながら無我夢中でやってまいりました。

最初は既設の多喜の園に「ユニット型」を導入、「掛川福祉の郷」新設にかかわり、本年五月に地域密着型介護老人施設入所者生活介護（サテライト型特別養護老人ホーム）二か所を開設いたしました。福祉は知れば知るほど大変なことを実感致しております。最近でこそ人を募集すると応募がありますが、以前はなかなか集まらず、苦勞の連続でした。しかも困った時の福祉では、質の低下が免れないことも事実です。介護をする職員を一人前に育てるには、其れなりの時間とお金がかかることも事実です。

今回浜松市浜北区新原と天竜区にサテライト新原・サテライト天竜（各入所者二十九人）を平成二十年度事業として計画、諸般の事情で建設が遅れ、平成二十一年五月其々の

事業所を開設することが出来ました。計画当初は利用者のこともさることながら、果たして働いてくれる職員が集まるだろうか心配の種でした。ところが昨年の秋口から経済

情勢が一変し、経済が低迷し始め、年明けと同時に人が巷に溢れ始めました。お陰様で職員は比較的苦労しないで採用することができました。何が幸いするか分かりません。

サテライト新原・天竜とも地域に根差した施設で2×4工法の木造平

トピックス

「介護の日」メインキャラクター決定

二十一世紀委員会 副委員長 峰 野 政 博

昨年（平成二十年）栢添厚生労働大臣（当時）の提唱により「介護の日」が制定されました。

これは、介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、利用者、家族、介護従事者、

それらを

取り巻く

地域社会

における

支え合い

や交流を

促進する

観点か

屋建てで開業いたしました。名実共に地域に愛される施設となるよう、これからも頑張っていきたいと考えております。尚、欲を言えば補助金が少なく（二十二年度は経済対策で増額）、資金の調達にはそれなりに

苦労致しました。二十二年度に申請すれば、倍以上の補助金を受けることが出来たことを考えると、政策的に一貫性のある先を見た施策をお願いしたいものです。

ら、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日として、イイ日イイ日の語呂合わせから十一月十一日を介護の日とすることになりました。

静岡県老人福祉施設協議会では、初年度の昨年、東・中・西各支部にて駅頭で、ポケットティッシュとメモ帳を配布し、街頭PRを行いました。

そして今年は、この「介護の日」をさらに広くPRするために何かできないかを二十一世紀委員会にて協議し、県老協としてのマスコットなりキャラクターを創作しようとい

うことになりました。

県内会員施設の職員の皆様から、二十一件二十四点の応募をいただき、二十一世紀委員の投票により四点の候補作品が選出され、その中より正副会長会議の席上にて採用作品が決定され、キャラクターの名称も「ケアットちゃん」と命名されました。



ケアットちゃん

採用作品「ケアットちゃん」

今後は、多くの施設で「ケアットちゃん」をご活用いただいて、「介護の日」をより広くPRいただきますようお願いいたします。

そして、介護業務を生業とする私たち静岡県老人福祉施設協議会を始め介護・福祉に対する社会的な理解を深めることができればと思っています。皆様のご協力ありがとうございます。

※「ケアットちゃん」は県老協ホームページより自由にダウンロードできます。

活動報告

【老施設】

★ 理事会 二十一年十二月十七日、クーパーホール会館において、二十二年度組織等の見直し実施、平成二十二年三月任期満了に伴う役員及び委員の改選について協議しました。

★ 介護の日街頭キャンペーン

二十一年十一月十一日、昨年に引き続き、東、中、西部の支部別にJR三島駅南口、北口、静岡駅北口の地下道、浜松駅北口広場で実施しました。

★ 第一回組織見直し検討小委員会

二十一年十月三十日、県総合社会福祉会館において、現状分析、見直しの観点確認、骨子の検討について協議しました。

★ 第二回組織見直し検討小委員会

二十一年十一月十七日、県総合社会福祉会館において、素案の検討について協議しました。

★ 第三回組織見直し検討小委員会

二十一年十一月二十四日、県総合社会福祉会館において、実施案の検討について協議しました。

★ 第四回組織見直し検討小委員会

二十一年十二月七日、県総合社会福祉会館において、最終案（報告書等）の検討について協議しました。

★ 第一回ユニットケア対策検討小委員会 二十一年九月十六日、県総合

社会福祉会館において、課題の発掘と今年度の検討項目について協議しました。

★ 第二回ユニットケア対策検討小委員会

二十一年十月二十六日、県総合社会福祉会館において、ユニットケア研修について協議しました。

★ 二十一年十二月一日、静岡商工会

議所会館において、認知症介護研究・研修東京センターユニットケア推進室長 秋葉都子氏を講師に招き、ユニットケア研修会を開催しました。参加者は百四十八名でした。

【特養部会】

★ 二十一年十二月二十五日、グラン

シップにおいて、日本女子大学教授 久田則夫氏を講師に招き「どうすれば介護のプロになれるか」と題する講演会と演習の新人職員の研修を開催しました。参加人員は百二十六名でした。

【21世紀委員会】

★ 二十一年九月十日、県総合社会福

祉会館において、施設間職員交流研修、広報研修会（中級編）、介護の日メインキャラクター募集について協議しました。

★ 二十一年十月十五日、メインキャ

ラクター審査会。事前に委員の投票により四点の候補作品が選出され、その中より正副会長会議の席上にて

採用作品が決定されました。

★ 二十一年十月二十日、静岡音楽館

AOIにおいて、メインキャラクター選考結果報告、広報研修会（初級編）、施設間職員交流研修について協議しました。

★ 二十一年十月二十日、静岡音楽館

AOIにおいて、静岡デザイン専門学校非常勤講師 池田仁氏、松永志郎氏を講師に招き広報（中級編）研修会を開催しました。参加者は四十七名でした。

★ 十二月十四日、県総合社会福祉会

館において、施設間交流研修、広報（初級編）研修について協議しまし

【企画経営委員会】

★ 二十一年十月十五日、県総合社会

福祉会館において、静岡県厚生部長 寿政策局と行政説明、静岡県の高齢者施策の概要及び介護人材確保対策事業等についての懇談会を実施しました。

参加者は、県側 局長以下十名、老

施協 会長以下二十名。

【広報委員会】

★ 二十一年九月十五日、県総合社会

福祉会館において、編集小委員会を開催し、「しず老施設」第二十六号の発行及び第二十七号の編集企画について協議しました。

編集後記

● 「富士三鷹三茄子」これは本県のことわざである。縁起のよい夢を順に言われております。本年も良い夢を見てスタートしたいと願います。

● 昨年十二月に、厚生労働省は各都道府県で把握している特養待機者は、約四十二・一万人いると発表、新たに施設の必要性を痛感いたしました。これからは、もっと施設の理解や必要性を訴えて参りたいと思います。

● 今年「寅」年。寅のイメージは、肉食で攻撃的な感じですが、やさしく子育てしている様子などは、みんな一緒なんだと思います。

● 昨年は、草食系人間とか、肉食系人間って言葉が流行っていましたが、どちらが良いのかは別として、我々の仕事は、良い人間関係があって成り立つもの。今年も、「人が好き」で頑張ります。

● 昨年の流行語大賞は「政権交代」でした。過去に大賞を受賞した流行語を皆さんのくらしい覚えていますか？ 今回の大賞は色々な意味で、国民が政党選択し、期待が入り混じっている流行語大賞だと思います。

● 以前のように数年後には「いつの大賞なの？そんな流行語知らないよ」と言われないように、平成二十一年の大賞は政治、日本を変えた流行語であるよう期待したいものです。

（古井）